

6班 生涯を通じた健康づくり

課題	県が何をする	誰が	何を	誰が	何を	
県の健康施策の情報発信						
県施策の効果的な情報発信	メディア、SNSの活用(楽しくなるようなイメージで) 県内出身の若者層に人気タレントなどPR 各市町にてPR週間を設けて「マイレージ2倍デー」等を実施					
	県の施策をメディアやSNSを通して発信する	市町	学校を通して情報発信する			
	SNSなどを通じて広報 現代の情報社会では、対人関係でストレスを感じる若者が多いことから、関心をもたせる先駆けとして、ストレスに対処できる情報を提供する					
	情報発信を依頼したい企業団体等に、直接集まってもらい対応をしてもらう					
	健康に関するアンケートを全世帯に出し、必ず読んで情報も分かりやすいようにし、返信させる 返信が来ない高齢者等は民生委員等が訪問する					
	県のデータ分析情報を健康や医療関係部局以外にも発信する					
	情報の開示	個人	受け取った情報を行動に結びつける			
健康対策(家庭)	意識せずに行えるような、健康生活のモデルの作成 市町への指導	市町	健康生活の指導、啓発	個人	健康生活のモデルの中で、できるものに取り組み	
健康寿命延伸のための疾病予防		市町	正しい健康情報の提供	個人	お祭り広場などに集まり、健康体操を楽しくやり体を動かす	
若者世代や無関心層への健康づくりの普及						
若者世代、無関心層への対策	糖尿病などの患者との交流を学校単位で設ける	個人	当事者の立場に立ってみる(血糖値、病院食)			
	疾患経験者と若者世代、無関心層の交流の場をつくる 身近な人に健幸アンバサダーのような人を増やす	市町	疾患経験者と若者世代、無関心層の交流の場をつくる 身近な人に健幸アンバサダーのような人を増やす			
	健幸アンバサダーの増員 各学校団体への講義、病気経験者の採用	市町	幅広い年齢層の健幸アンバサダーの選出努力 各学校、団体への講義	企業 学校 個人	企業学校:健幸惣菜ランチの導入 個人:健診に行く、口コミで誘う	
	健康アンバサダーの拡充の働きかけ	市町	病気体験者による健康と健診(予防)の大切さを伝える			
		インフル エン サー	インフルエンサーを宣伝大使に			
健康無関心層への対応	イベント等で話し合いの場を設ける	市町	学校を通して、話し合いの場を設ける			
	年齢に関係なく、健康について話し合える場を増やす 実際に病気をしたことがある人と、学生や健康無関心層との交流の場を設ける	市町	実際に病気をしたことがある人と、学生や健康無関心層との交流の場を設ける			
	病気を経験した人から実体験を発信する 情報発信により、健康に興味をもたせる	市町	健診の年を再検討する	企業 NPO	企業:健診を義務付ける NPO:シルバー等で健康に関する横展開をする	
	病気体験者を交えた講演会や勉強会の実施	市町	アンバサダーを増やし、身近なところからの情報発信 お誘いグループなど健診したあと、お茶を楽しむ			

6班 生涯を通じた健康づくり

課題	県が何をする	誰が	何を	誰が	何を
健康マイレージ事業の推進	禁煙食堂、ドラッグストア、ホームセンターの保険コーナー、保健所、病院に行けばポイントを貰えるようにする(無関心層を呼び込むため) 健診と献血をリンクさせて、高校から献血する				
	ポイント制(インセンティブ)を利用してエコポイント(買い物)等健康に関わるポイントを使う "健康マイレージ"を多くの人に知ってもらうために、各方面に協力を依頼、TV、ラジオ等を使用することも検討				
	"健康マイレージ"ブースを大学内に設置し活動ポイントを大学内等で付与や若者世代への情報発信をする 医療、福祉大(短大)では、授業内に"ふじ33プログラム""減塩55プログラム"の学習(授業)や実数(調理実習)を行う				
関心→行動に	行動に移したメリットとして、Tポイントなどと連動させる 複雑な手続きは不要で簡単にメリットを享受できることが必要 行動に移すまでの壁を低くしてほとんどのユーザーが多いツールを活用				
健康というものを教育分野で共有	県と市町の主導で、障害を持った方との交流や食育を推進	教育機関	情報を共有→家庭でも共有		
行政の役割	健康づくりは行政対応に限界	市町	小中高校で各1回健康増進のために健診を行う		
健診受診の仕組みづくり					
若者の健診受診率の向上	予算の獲得 費用対効果:誰が費用を負担するのか、受信のマイナス面もあるのでは				
	高校生までは、1年に1回定期健康診断があるが、大学生も2年に1回はあってもよいのではないか				
	SNSなどを利用して、健診の日付や内容などの情報を若者へ発信する	企業	強制的に若者に受診させる		
		教育機関	学校健診のときに血圧だけでも図る		
	企業へ、社員等が健診を受けるよう連携して取り組む	企業	健診に行くための時間、場所の設定、費用の補償		
健診受診率の向上 乳幼児から高齢期まで健康づくりの自覚や意識の向上、障害者、うつ、引きこもり、非正規雇用者、情報弱者への発信	国保社保加入者の健診率向上指導 特定健診機関(医師)を市町単位ではなく、県内どこでも受けられるようにする	市町	保健師、保健委員、民生委員は、対象者の把握、参加の指導	企業等	各種団体への周知、受信参加を促す 団体の会員への周知や受信参加を促す 社会参加を促す就労機会の提供 従業員全員参加することで労災事故防止
人間ドックの活用(関心のある方の健康寿命の延伸)	定期健診では見落とす病気があるため、より健康に関心のある個人に対して、人間ドック受診者への補助金を助成				
特定健診	市町と協力してなるべく健診させる 子供時代、中学、高校、大学、30代、40代行こうと自分の健康を比較できる健康手帳などでわかるようにする				
家庭、企業、学校等での健康づくりの普及					
家庭、事務所での健康づくりの推進	健康グッズの作成(おまけつき) 市町に対して、アイデア提供、イベント開催 健康づくりボランティア養成事業と人材活用の活性化				

6班 生涯を通じた健康づくり

課題	県が何をする	誰が	何をする	誰が	何をする
家庭、事務所での健康づくりの推進	健康食情報の発信	企業 個人	社食、給食の健康食化 家庭での食事の健康化		
	学食や給食に健幸惣菜を盛り込んでいく				
		企業	健幸惣菜を使った社食	大学	健幸惣菜を使った学食 大学生は安めに設定したほうが良い
		地区	健幸アンバサダーになるための講座を開催 修了者は、家庭に学んだことを持ち帰る 将来的には、各家庭に一人健幸アンバサダーがいるようにする		
学食への“健康惣菜”の取り入れ	学食に健康惣菜を取り入れ、健康惣菜メニュー購入者にはインセンティブを付与				
学生、働き盛り世代への健康対策	食堂への健幸惣菜の導入	企業 学校	社食、学食への健幸惣菜の導入		
食育、食生活	食べてはいけない食材、食料、調味料、摂取量等を明確に明記、指導する	市町 企業	食べてはいけない食材、食料、調味料、摂取量等を明確に明記、指導する		
	教育機関(学校(私立学園含む))への出前講座等、市町、企業へ出向いてその方法(教育)を指導する その人材の育成				
健康の地域格差の解消と情報発信					
地域格差の是正	情報の開示	市町	地域格差の解消		
	東西格差は、西日本・東日本の食事の違いの反映ではないか 食生活の違いをデータ化しているか				
	引き続き、健康課題のデータの収集を行う 地域差、食の地域差の把握と分析により改善策を進める				
	成功事例の市町への共有化	市町	他県を含め、取組活動で成功している市町を参考とし、ベンチマークとする		
その他					
禁煙について	店内等での禁煙を条例で定める タバコの販売価格を上げる				
県の役割分担(予防)	予防に対する予算増加と、市町に対して指導強化(周知徹底) 市町に対して改善目標を提示、知事名で通達				
行政(県・市町)の役割、推進の強化	県が主体で施策を進める 市町では、地域ごとに差が出てしまう				
障害者・患者と健常者・子どもたちとの交流	患者を隔離するのではなく健常者もアクセスしやすい病院の見学や病院の開放 3Dビデオなどで病気・障害体験 県立総合病院にコンビニ、図書館、カープス、ライザップなどインターフェイスを誘致、設置する				
健康活動や予防		市町	ボランティア参加者を増やす 持続可能な活動を互いに支えてゆく 社会福祉協議会や保健委員会の指導を依頼 健康力アップの工夫をする 一人でやらずにみんなで体操をする	個人	仲間が増えれば、太祖の力を知ってもらおう